

# 戦略級 日露戦争

## 史実に基づくロシア海軍ユニットの数値修正案

今野 千尋

### 1. ペレスヴェート級戦艦について

SPI社のオリジナル版では、ペレスヴェート級3隻の防御力はペレスヴェートとオスリャーピヤが「4」、ポベータが「3」となっている。

同型艦3隻の中でも、3番艦ポベータのみ防御力が1低く設定されているのである。

1・2番艦と3番艦の差異として想起されるのは、前者の装甲がハーヴェイ鋼とクルップ鋼を併用しているのに対して、後者はクルップ鋼のみを使用しているという点である。

イギリス海軍の実験結果によれば、ハーヴェイ鋼の対弾性は複合装甲の1.4倍から1.6倍、クルップ鋼の対弾性は複合装甲の2倍から2.1倍といわれている。

実際問題として、装甲材質の変更によってその厚さを減少させ、防御範囲を変更するケースもあるので、上記の数値分だけ単純に防御力が増加するわけではないが、1・2番艦よりも弱体化するということもないだろう。

ポベータの防御力は1・2番艦と同様の「4」が適当であると考ええる。

また、ペレスヴェート級戦艦の攻撃力であるが、これは戦艦としては低めの「6」にレーティングされている。

ペレスヴェート級戦艦は10インチ砲4門・6インチ砲12門装備であり、12インチ砲4門・6インチ砲12門装備のペトロパブロフスク級戦艦やポロディノ級戦艦より攻撃力が劣ることは間違いない。

しかしながら、「6」というのは、旧式で8インチ砲4門・6インチ砲16門装備のロシア級装甲巡洋艦と同じ値でしかない。

筆者としては、ペレスヴェート級戦艦(ペレスヴェート、オスリャーピヤ、ポベータ)の攻撃力は、ポロディノ級戦艦よりは低いですが、ロシア級装甲巡洋艦よりは高い「7」が適当であると考ええる。

この変更により、今まで使われることのなかった戦闘結果表の7のコラムが有効利用されることになるだろう。

ペレスヴェート級戦艦はドイツの装甲巡洋艦に対抗するために建造されたとされるが、日本海軍の有するイギリス製装甲巡洋艦(6-3)に対しても優位に立てるはずである。

### 2. アスコリド、ヴァリヤーク、ボガティリ各級防護巡洋艦について

SPI社のオリジナル版では、アスコリド、ヴァリヤーク、ボガティリ各級防護巡洋艦の攻撃力はすべて「6」となっている。

これらの防護巡洋艦は、6インチ砲12門を装備するものであるが、8インチ砲4門・6インチ砲16門を有するロシア級装甲巡洋艦と同じ攻撃力であるというのは、明らかに過大評価であろう。

ちなみに、6インチ砲8門を装備するパラダ級防護巡洋艦の攻撃力が「4」である。

よって、アスコリド、ヴァリヤーク、ボガティリ各級防護巡洋艦(アスコリド、ヴァリヤーク、ボガティリ、オレグ)の攻撃力は、パラダ級防護巡洋艦より高く、ロシア級装甲巡洋艦より低い「5」とするのが適当であると考ええる。